

あおぞら21



補正予算総額206億円、当初予算の3倍に(12月会議) …… 2
熊本地震の教訓をどのように活かすのか … (一般質問) … 5

表紙：成人式で交通安全宣言する成人代表(1月8日)

12月定例会

29年1月31日

No.113

熊本・みふね町議会

補正予算総額206億円、当初予算の3倍に

12月会議を12月8日から12日にかけて開いた。28年度一般会計補正予算を含む議案等12件、発議や請願を審議採決した。町政に対する一般質問に3人が登壇した。

12月議会で決まったこと（12月8日～12日）

議案 号数	簡易議案名	概 要	質疑・討論 の有無	採決 結果
議案 24	指定管理者の指定期間の変更について	スポーツセンター指定管理者の期間延長	有	全会一致で 可決
議案 25	御船町一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について	人事院勧告に基づく改定 (扶養手当等)	無	全会一致で 可決
議案 26	御船町職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	人事院勧告に基づく改定 (介護休暇等)	無	全会一致で 可決
議案 27	御船町消防団員の定員、任免、給与、服務等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	消防団員の定数の改定	有	全会一致で 可決
議案 28	平成 28 年度御船町一般会計補正予算（第 8 号）について	熊本地震に係る補正予算等 予算総額 歳入歳出 20,660,051千円	有	全会一致で 可決
議案 29	平成 28 年度御船町国民健康保険事業特別会計補正予算（第 3 号）について	熊本地震に係る補正予算等 予算総額 歳入歳出 2,852,592千円	無	全会一致で 可決
議案 30	平成 28 年度御船町介護保険事業特別会計補正予算（第 3 号）について	予算総額 歳入歳出 1,801,675千円	無	全会一致で 可決
議案 31	平成 28 年度御船町緑の村運営事業特別会計補正予算（第 2 号）について	熊本地震に係る補正予算等 予算総額 歳入歳出 15,311千円	無	全会一致で 可決
議案 32	平成 28 年度御船町公共下水道事業特別会計補正予算（第 4 号）について	熊本地震に係る補正予算等 予算総額 歳入歳出 783,033千円	無	全会一致で 可決
議案 33	平成 28 年度御船町情報通信基盤施設運営事業特別会計補正予算（第 1 号）について	予算総額 歳入歳出 60,995千円	有	全会一致で 可決
議案 34	平成 28 年度御船町水道事業会計補正予算（第 4 号）について	熊本地震に係る補正予算等 予算総額 収益的収支及び支出 収入 321,429千円 支出 417,430千円 資本的収支及び支出 収入 21,413千円 支出 154,207千円	有	全会一致で 可決
諮問 2	人権擁護委員の候補者の推薦について	人権擁護委員の推薦 中嶋啓介 氏	無	全会一致で 推薦

発議 7	地方議会議員の厚生年金制度への加入を求める意見書の提出について	地方議会議員の厚生年金制度への加入のための法整備の実現を求める意見書の提出	無	全会一致で可決
請願 3	御船町立高木小学校の茶園保存を求める請願について	茶園の存続を求める請願	無	不採択 反対者 沖 中城

一般会計補正予算

財政調整基金の積み戻しは？

中城議員 地震災害復旧で補正予算の総額が206億円となつて、当初予算（73億円）の約3倍に増加した。町税1億4,000万円の減額は税金の減免措置によるもの。地方交付税の約7億円の減額は国の財源組み替えとのことだが説明を。

藤本企画財政課長 これまで廃棄物処理に係る財源は、半分が国の補助金、残りが特別地方交付税だったが、政府の方針が特別交付税にあてた分7億5,910万円を起債するように変わった。今回起債総額で30億100万円の増となっているが、この中に7億5,910万円

の分が含まれている。

中城議員 財政調整基金は底をつき、起債総額は30億円増加して48億円、心配する住民の声もある。特別地方交付税で措置されるときちゃんと説明したい。

ふるさと納税額が増加した

塚本議員 ふるさと納税返礼品415万円の説明を。

藤本課長 11月からインターネットのふるさと納税の特設サイトに正式に登録して、商品載せている。これまで返礼額の割合を納税（寄附）額の3割としていたが、納税額増に結びつかなかった。今回返礼額を5割に引き上げたら、

11月は185万円ほどの納税額の純増があった。最終的には1,000万円ぐらいは納税額が見込めると考え、予算として150万円ほど確保していたので差額415万円を今回補正予算に計上した。

インター周辺へ企業を誘致したい

岩田議員 企業誘致費50万円の説明を。

藤本課長 町内3つのインターの少なくともどこかに、企業を誘致したい。専門家のアドバイスを受けるための経費だ。



御船インターチェンジ



被害が大きい中原団地

**国、県に速やかな概算払いを
求めるべきだ！**

田端議員 解体業者への支払いは遅れてないか。また解体費の流れはどのようになっているのか。

宮崎環境保全課長 町の一般財源を使って解体業者、運搬業者、最終処分業者に11月末現在で約8億6,000万円支払った。今年中には10億円ぐらいたを払うという形になる。

田端議員 一般財源を使っての立て替え払いについては、どの時点でそのお金は戻るか。

宮崎課長 補助金も、起債もすべて同じで5月末ぐらいた入ってくる。それと概算払いがある。これは概算でもらって最終的に精算払で調整を行

うというもの。解体の費用については、町にお金がないので、来年の1月中には概算払いをお願いしたいと考えている。

田端議員 国や県は補助金申請があった時点で速やかに概算払いなどをやるべきだ。また、そういう要望をしなければならぬ。現場で働く方々に支払いがされていた。町の対応はきちんとできている。

大規模盛土事業の受益者負担割合は？

福永議員 大規模盛土事業や地域崖対策などの1戸当たり自己負担割合や事業の終わる時期は。

松岡建設課長 災害復旧事業

は平成29年度までに終わるところで進めている。この受益者負担の分は、国の制度に基づくものでその中に受益者負担というのが織り込まれている。平成28年度の国の第2補正に基づくものであり、今の時期に予算化をした上で事業に取り組む必要がある。このことから歳入財源として、受益者負担を郡内の町とも協議をして1.5%としている。受益者に十分な説明を行った上で事業を進める必要がある。

12月議会における 議員の発言（質疑）回数	田端	森田	岩永	中城	福永	田上	藤川	池田	清水	塚本	田中	沖	岩田	井本
	18	0	1	20	19	11	0	0	3	10	0	12	5	議長

上記の表は12月議会の質疑において、発言のために議長から指名された回数を「発言回数」として掲載しています。発言内容等に関しては、議会傍聴や議事録で確認されることをお勧め致します。

Q熊本地震の教訓をどのように活かすのか

Aそれぞれの教訓を検証し、考えられる対策を講じていく

福永 啓 議員



一
般
質
問

福永議員 熊本地震対応でどのような教訓を得て、その教訓をどのように生かしていくのか。

藤木町長 町民の行動が予測できなかったこと。情報の伝達手段が確立されていなかったこと。初動の人員が不足したことなどがあげられる。それ以外にも役場内各課においてそれぞれ教訓を得ており、復興推進本部会議を中心として、復興計画においても教訓を検証し、考えられる対策を講じていく。

福永議員 御船町の中山間部、平坦部ではそれぞれどのような課題が生じ、課題解決を通してそれぞれどのような将来図を描こうとしているのか。

藤本企画財政課長 中山間部においては被災農家の抱える問題解決が一番の課題ととらえている。

利用できる制度は可能な限り活用し、取りこぼすことのないよう情報収集に努め、地域に住む人たちが夢を持って住み続けられる地域を目指す。平坦部においては、各地域からの人口流出も課題であり、多様な生活再建策を講じながら、被災者が元の地域に戻ってもらえるような取り組みを展開し、安心して住み続けられる町の実現に取り組みたい。

福永議員 震災対策を受け、町の予算は例年の約3倍程度となっている。町の借金も増え、財政指数が悪化することはないか。

藤本課長 地震対策において発行する地方債のほとんどは交付税措置があり、財政指数がそれほど悪化することはないと考えている。

福永議員 復興計画はいつまでにどのようなプロセスで策定するのか。町が創造的復興を成し遂げるためには人づくりが重要である。復興計画策定は住民主体で、特に若い人の意見を積極的に取り入れるべきではないか。

藤木町長 御船町災害復興推進本部を本年9月20日に立ち上げ、震災復興計画における基本方針を10月7日に策定し

た。その中で、5つの方向性示し、町民、地域のニーズを把握するため、10月17日から11月11日まで町内10地区で地区座談会を開催した。今後、御船町震災復興計画策定会議を開催し、18歳以上の無作為町民1,000名、嘱託員、中学生のアンケート、御船高校生徒の復興計画に係る意見交換会、パブリックコメントの実施を予定している。議会からも意見をいただく。年度内には復興計画を策定する。

福永議員 復興に対する決意を示していただきたい。

藤木町長 地域のコミュニティ再生なくして復興はあり得ないと強く思っている。今後、町一丸となって地域のコミュニティ、そして子どもたちの教育などを中心として、必ずや復興に近付けていく。



復興元年、町の復興へ向け始動



Q地震・豪雨災害で御船町の財政大丈夫？ A特別交付税などでの積み戻しに期待する

田端 幸治 議員

田端議員 4月の地震発生以来、町は町民の生命財産を守る事を第一義的にライフラインの復旧や生活再建に向けた取り組みと、同時に財政出動も余儀なくされたが、御船町の財政状況と国からの財政支援は。

藤木町長 28年度当初73億7千万円でスタートしたが、4月の震災及び6月の豪雨により、今回の補正予算を含めて、206億6千万円となり、およそ例年の3年分の予算に相当する。

また、27年度末に約75億4千万円だった起債残高は、約120億円となるが、災害復旧の起債は交付税の基準財政需要額算入措置が80～95%あるので、財政負担や将来負担比率等の指標は急増することはない。また、災害発生当初道路や農業施設、文教施設等の測量・査定等災害復旧に必要な業務財源については国の補助対象ではないため、財政調整基金を充当してきたため、基金残が90万円程度となり、町民の皆様は心配をかけた。

インター周辺に企業誘致を

田端議員 今後も災害復旧と復興に向けて新たな税収が必要と思われるが、御船町特有のインター周辺3ヶ所を活かすため、新たな都市計画や用途地域の見直しが必要と思わ

れるが、町長の考えは。

藤木町長 平成28年度から着手し、11月から本格的に始動しているふるさと納税や九州の中央に位置し、複数のインターチェンジを有する本町の特長を生かした企業誘致に向けて、本格的に取り組むこととし、今回関連予算を計上している。

農業災害に農家の負担軽減を

田端議員 今回の災害で特に農業関連災害が甚大であるが、どのような状況か。また、山都町では新たに条例を制定し、農家負担をゼロにしている。御船町もしっかりとした検討をしていただきたい。中山間地では本年度作付けが出来ない状況であったが、来年度からの作付けに向けて、水路等の改修は間に合うのか。

藤木町長 地震及び豪雨により、農地・農道・用水路等に甚大な被害が発生し、被害件数3,113件、被害総額約43億円となっている。災害復旧に向けて9月までに940件の災害復旧申請があり、現在、査定設計業務を進め、328件の災害査定を終えている。

1月からは、来年度の水稲作付けが行えるよう、幹線用水路（元禄嘉永井手）等の災害復旧工事を優先的に発注し、農家負担軽減に向けて、補助

率増高に関わる作業も併せて行う。

復興住宅と高齢者対策は

田端議員 今後、復興住宅の建設に向けての取り組みと同時に、高齢者や介護を必要とする住民が増えることが予想されるが、対策に向けどのように取り組むか。

藤木町長 災害公営住宅の整備に関しては、整備戸数や建設予定地も含めて現在協議中で、今後復興計画との整合性を踏まえたうえで、建設する必要があると考えている。

道山福祉課長 仮設住宅入居者の中で、高齢者や介護を必要とする要支援者が41.4%（438名）いる。御船町に於いては、特別養護老人ホーム等、郡内他町に比べ少ない状況であり、29年度介護保険計画の見直しの中で、検討の必要があると考えている。

12月議会後の情報

国からの特別交付税が12月（6億7千万円）と翌年3月に交付されることになり、今後財政調整基金の積み戻しも予算化する予定。

Q復興を進める上での基本的な考え方は？

A将来像は「みんなが夢を持って住み続けるまち」

岩永宏介 議員



一般質問

「オール御船」に地元選出の県議は含まれるのか

岩永議員 「復興計画地区座談会」が旧小学校区ごとに開催されたが、町長は冒頭のあいさつでどういうことを話されたか。

藤木町長 座談会の目的、徳野先生を中心とした「ふるさと発復興会議」にコーディネートしてもらうことを話した。

岩永議員 もうひとつあったのではないか。

藤木町長 進むべき方向として「オール御船」で行こうと申し上げた。

岩永議員 「オール御船」は極めて当然なこと。町長に久しぶりに会って、自分たちの意見を述べたいという住民感情とは相当ずれがあった。ところで、「オール御船」には地元選出の県議員は含まれるのか。

藤木町長 地元県議もオール御船の中の一人だ。

岩永議員 11月の町議会で町長は、「災害対策の部分で県議にも来てもらっている」と答弁しているが、会合でたまたま顔を合わせた、あるいは県議が出向かれたときに会った、その程度に過ぎないのではないか。県議と町長がきちんとつながっているとは信じがたい。

藤木町長 私としては災害復興に来ていただいたと、いろんな会合で会ったときにお話をしていると、そういうことに間違いない。

岩永議員 やはり町民のためにも県議と積極的に関係を作っていたきたい。県議、知事、そして県選出の代議士がいる。そこを通して各省庁に陳情に行く、それが普

通の流れだ。

住民の意見・思いにもっと耳を傾けよ！

岩永議員 地震からしばらく経ったところで、町長に今回の地震の総括をすべきだと提言した。町長は、「今は忙しいけれども、後では総括をしたい」と答弁があったが、熊本地震についての総括は終わっているのか。

藤木町長 12月までに済まさないといけないことが各課において続いている。この時期を乗り越えたなら総括できる時期がやってくる。

岩永議員 震災復興計画基本方針を出すなら、その前に総括ができてないとおかしい。

藤木町長 総括は行ってないが各課においては、総括に近い十分な思いを持って復興計画に当たっている。

岩永議員 総括も終わってなければ、座談会の中心はなおさら住民の意見・要望を十分に聞くということではないのか。

藤木町長 もちろん住民の意見を聞いていくということだ。

岩永議員 地区ごとの座談会を終わって、町長はどのような感想を持っているのか。

藤木町長 各校区での課題や思いが違う。その中の行政区においてもまた違う。各会場でアンケートに答えてもらった。この中からできることをやっていく。

岩永議員 アンケートはどこで作ったのか。

藤本企画財政課長 企画財政課の責任において作成した。

岩永議員 責任はそうだろうが、責任部署と作成部署は同じか。

藤本課長 「ふるさと発復興会議」の徳野先生他、何名かの方々から素案を出してもらい、町職員で話し合いをしてアンケートの中身を詰めた。

岩永議員 責任部署と実際に作った主体が違う。「ふるさと発復興会議」というのはどういう組織か。

藤木町長 メンバーは、熊大の徳野先生を中心とした先生方、メディア関係、熊本県下はもとより九州の地域づくりの代表の方々、それと私たち行政、この4者が一体となって中間支援という形で熊本県で立ち上げている。

岩永議員 アンケートは項目に従って書くようになっていて、自由に意見と要望を書くには難しかった。どうしてそのような組織を入れて座談会をしなければならなかったのか。

藤木町長 益城町においても熊大の中間支援機構が入っている。今回は私の判断で入れた。

岩永議員 「ふるさと発復興会議」の司会進行に問題があった。あれは座談会ではないと感じた。住民の意見・思いにもっと耳を傾けて、復興をしていただきたい。

藤木町長 今回の座談会に当たり、いろんな角度から考えながらいったが、只今指摘されたようなことがあれば、もっと私たちも真摯に向かわなければいけないと思う。

徳野先生から進行に対してのお詫びもあった。座談会で受けたこと、アンケートをどう生かすかだ。

かがやく



熊本地震・豪雨災害で 大活躍の消防団

(熊本地震の活躍が認められ総務大臣から感謝状)



雨の中の消防団出初式（1月8日）

八反田幹人様（御船町消防団9代目団長）は、雨の中での消防団出初式は記憶にないと話された。

町民の皆様におかれましては、昨年四月の熊本地震、六月の豪雨災害など、ほとんどの町民の皆様が被災された大変な年でしたが、元旦の穏やかな日の出を見ると、皆様もそれぞれに穏やかな新年をお迎えになったことと思います。

一月八日に雨の中、御船橋河川敷で消防団出初式がありました。

みなさんも、昨年の地震の時改めて消防団の活躍、必要性がわかれたと思いますが、今年は雨の中での出初式でした。しかし、勇壮で機敏な姿は、天気の時以上ではなかったかと思えます。

編集後記

町内にはまだまだ消防団に入っていない若い人がたくさんいると思います。ぜひとも消防団活動を理解していただき、たくさんの方の入団をお願いしたいものです。

森田優二

議会広報編集特別委員会

発行責任者	井本 昭光
委員長	田上 忍
副委員長	岩永 宏介
委員	岩田 重成
委員	清水 聖
委員	中城 峯雄
委員	森田 優二

議会の予定 2月

- 6日 全員協議会
- 7日 御船地区衛生施設組合議会
- 8日 一般廃棄物協議会
- 9日 議会（予定）
- 10日 民生委員との意見交換会（産業厚生常任委員会）
- 15日 上益城消防組合議会
- 16日 広域連合議会
- 17日 県町村議会議長会定期総会
- 22日 御船町甲佐町衛生施設組合議会

112号の訂正とお詫び

編集後記で紹介した本のタイトルに誤りがありましたので、訂正しお詫び致します。正しくは、「懇篤・剛毅の人 宮部鼎蔵」でした。